

令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25002

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇札幌市の共通指標調査や教職員アンケートから「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」「振り返ったことを次に生かそうとしている」という実態がある。 ◇目指す子ども像を「つたえ・つながり・うごきだす子」とし、自ら考え「子ども同士のつながり」を大切にしながら、日々の授業研究に向かった成果が表れた。	◇札幌市の共通指標調査や教職員アンケートから「自分の意見を進んで発言しようとしている」児童の割合が3年連続約6割台という実態がある。 また、「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」は増加傾向にあるが未だ7割にとどまっていることから、共に学び合う課題探究的な学習の充実を図る必要がある。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じる」などの相互承認に関する項目において、肯定的な回答が昨年度より増加傾向にあるものの7割にとどまっている実態がある。今年度は学校経営方針で「・自分から・自分のために みんなのために」をキーワードとして掲げた。全校で、共に学び合い、自己有用感を高めていく必要がある。日々の授業や縦割り活動を通して、互いのよさを認め合い・価値付け合い、共に学ぶ場の好循環を大切にしていく。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

取組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇研究主題「つたえ・つながり・うごきだす」 研究副主題「子ども同士がつながり うごきだす授業づくり」の実現 ・「学びのコントローラーを持っているのは子ども自身」の考えを共有し、課題探究的な学習の充実 ・「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」の確かな定着 ・イントロダクション→個別探究・協働探究→リフレクションのサイクルの実現のための授業改善と単元構成の工夫 ・学びに向かう自分のめあてと振り返りの記録化 ・子どもが考え、つながり、うごきだしたくなるような授業実践の積み上げ イントロダクション 個別探究 協働探究 リフレクション	◇話し合い活動の充実「挨拶」 ・学級ごとの「挨拶」のめあてを話し合い、全校で共有する。全校のみんなで「挨拶いっぱい学校」に向けて取り組んでいく。全校朝会や chromebook を使った振り返りの場も充実させていく。 ◇ぽかぽかカリキュラムの実施 ・よりよい人間関係を築きながら学び合うために、年間を通して全校でぽかぽかカリキュラムを実施。・子どもたちが「なんのために」「自分たちで決めていく」本物の経験を積み重ねていける場の充実を図る。

〈本プログラムの実行に向けて〉

